

教科 科目名	家庭科	単位数(週あたりの授業時数)		2 単位
	家庭基礎	履修学年(類型)	1 学年	普通・MS
教科書名(出版社名)		家庭基礎(東京書籍)		

### ●学習到達目標

実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

### ●学習計画

学期	月	単元名	学習内容
1	4・5月	生涯を見通す	生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解し、歩みたい人生の目標を描いてみる。
	6月	人生をつくる	家族・家庭をめぐる社会環境が変化する中で、将来どうすれば家族や地域、社会と協力・協働して、豊かな家庭生活や地域社会を創造していくことができるか考える。
	7月	子どもと共に育つ	子どもの育つ力を理解するとともに、親となったとき、あるいは地域や社会の一員として、どのように子どもと関わり、協力・協働して子どもを育てていくか考える。
2	9月	ホームプロジェクト 超高齢社会を生きる	「人生100年」時代を見通して、高齢期の特徴や高齢者の自立と支援、超高齢社会の現状と課題について学び、どのような高齢期を迎えたいか考える。
	10月	食生活をつくる	ライフステージに応じて、自立した食生活を送ることができるよう、安全でよりよい食生活とは何かを、科学的な視点から考える。
	11月	衣生活をつくる	健康で快適に装うとともに、様々な立場の人が安全で豊かであること、さらには資源や環境など地球の未来を視野に入れた衣生活文化を、科学的視点から考える。
	12月	住生活をつくる	安全で快適な住居や、地域の住文化や自然環境と調和する住居、長く住み継がれる住居とはどのような住居かを、科学的な視点から考える。
3	1月	経済生活を営む	自立した消費者として適切に意思決定を行い、生涯を見通して経済生活をマネジメントする力を身につける。
	2月	持続可能な生活を営む	現代の大量生産・大量消費のライフスタイルが引き起こしている地球全体の様々な問題と向き合い、持続可能なライフスタイルの実現を考える。
	3月	これからの生活を創造する	ここまでの学びを生かし、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築の視点から、生活設計を考える。

### ●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	生活を主体的に営むために必要な内容を十分に理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策の構想、実践、考察を論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
B	生活を主体的に営むために必要な内容を理解しているとともに、それらに係る技能を行うことができる。	生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策の構想、実践、考察を行うことができる。	様々な人々と協働し、課題の解決に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。
C	生活を主体的に営むために必要な内容について理解しておらず、それらに係る技能を行うことができない。	生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策の構想、実践、考察をしようとしている。	課題の解決に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。
評価方法	定期考査 実験・実習に対する技能 発問に対する答え	定期考査 授業プリントや課題の内容	実験・実習やグループ活動に取り組む姿勢 課題への取り組み方
評価の重み	$\alpha=0.4$	$\beta=0.4$	$\gamma=0.2$